

二〇二三年度 推薦入学者選拔

教育学部学校教育課程 国語専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の、動物行動学者の「岡ノ谷氏」と、作家の「小川氏」との対談を読
んで、後の課題に答えなさい。

岡ノ谷 最近「^①情報習慣病」っていうのを考えてるんです。「生活習慣病」っていうのがありますね。なぜあれが起きるかという、僕たちは進化の過程でだいたい飢えていたわけですよ。

小川 食物の足りない時代が圧倒的に長いんですね。

岡ノ谷 だから、甘い物や油っぽい物があつたら、もうすかさず食べる。

小川 今度いつ食べられるかわからないですからね（笑）。

岡ノ谷 そう。ところがそうじゃなくなった。地球規模で見たらまだまだ飢餓は多いのですが、一部の国ではそうではなくなって、甘い物や油っぽい物は非常に安価に食べられるようになった、にもかかわらず「これを逃したら次はいつ来るかわからない」っていうふうに体ができちゃって、そこが止まらないから過剰に脂をつける。それが生活習慣病の原因の一つですよ。同様に僕たちはコミュニケーション、他者とつながることで生きてきたわけです。僕たちが人間として生き残ってくる上で、他者が持っている「あの辺に餌がある」とか「あそこに危険がある」とかいう情報を共有することは非常に大切なわけです。

小川 そういう情報のやりとりが生死に直結したんですね。

岡ノ谷 生きていけない時代があつたから、われわれはやりとりすることとがたいへんに好きなんです。ところが、今はやりとりすることが無制限にできるような機器ができてしまつて、今度は必要以上のやりとりがなされるようになった。それを僕は、「生活習慣病」と同じ考えで、「情報習慣病」と呼んではどうかと言ってるんです。僕らが昔食べるのが精一杯で生きていたころは、まずお互いの信頼を作つて、その上でやりと

りしていたわけです。「信頼を作る」というのは伝達したいという意図を伝えるということで、すなわちそれを「意図のコミュニケーション」って呼ぶんです。信頼を作つたその上で初めて今度は「内容のコミュニケーション」が行われたわけです。「あそこは危ないから行かない方がいいよ」というのが内容のコミュニケーションです。こういうものは、仲良くならないと教えてもらえない。

小川 「この人の言うことだから信用できる」ということですね。

岡ノ谷 はい。ところが現代の日本なんかを見ると、それほど伝えなきゃいけない「内容」はあまりないんですよ。もはや、それほど危険なことでもないし、餌も足りている。ところが、「伝えたい」という意図という方は、もうどんどん独り歩きしてしまつて、伝えることなくなつても、伝えたいという意図が残っているので、何もなくてもなんとか伝えようとするんです。それが「情報習慣病」になつてくると思うんです。他人とつながつた後に、内容を伝達するという本来の目的を離れて、「つながること自体」の快感がどんどん独り歩きしている、というわけではないかと僕は思ってるんです。

小川 なるほど。人間が情報を求めたがるのには、ちゃんとした理由があつた。ただこの欲求がどんどん高まつてゆくと、何かよくないことが起こるでしょうか。

岡ノ谷 それが僕にもまだわからなくて。

小川 糖尿病になつたりメタボリック症候群になつたりするようなことが、情報の中で起こる危険性があるんでしょうか？

岡ノ谷 そう僕は考えがちなんです。ただ、時代に取り残された、^{注1}デジ

タルネイティブじゃない僕がそう思ってるだけで、これは本当は素晴らしいことじゃないかということも考えてみなければいけないんです。けれど、どうも僕にはすばらしいことのような気はしないんですよ。

小川 本能的にはむしろ危険を感じます。コンピュータの前でいろいろ、人のブログを読んだり検索したりしていると、あつという間に時間が過ぎて、でも振り返ってみると実は何もしていないに等しいんです。そのとき感じる空虚感には独特なものがあります。

岡ノ谷 小川さんでもそんなことをされることはあるんですか。

小川 はい。小説を本当は書かなきゃいけないのに、つついひかの作家のブログを読んだりして。で、そこからまた発展してどんどん違う方向に行ってしまった。

岡ノ谷 「集合知」という概念がありますよね。みんなが集まることで人類が個々の脳よりもっと段階の高い知に達することができるということを信じている人が世の中にはいるんですよ。でも僕はどうもそれが信じられなくて、ある局面、たとえばひたすら多くの実例を調べなきゃならないとかいうときには、そういうこともあるかもしれないけれど、やつぱりたいていの問題は、すぐれた個人が解くことにはかなわないんじゃないかというふうに思うんです。で、情報機器っていうのは、気晴らしで使っているうちはいいんだけど、ほら、「携帯電話がないと死んじゃう」って言う人がいますでしょ。そうなるとまずいよね。死ぬわけではないと思うんだけど（笑）。

小川 小説を書く前段階であちこち取材をしたり、資料を集めたりします。材料が出揃ったところで一種の満足感があって、まるで小説が半分書けたかのような錯覚に陥ります。実はその時点でまだ小説は一字も書かれていないわけです。大事なのは、情報を集めたあとの、私個人の働

きなんです。ですからたとえば今大地震が来たとしたら、一番に出すのは、たぶん私は書きかけの小説だと思えます。情報は取り返しがつきませんから。しかし若い人が持ち出す一番は携帯なんですよ。

岡ノ谷 やつぱり生活の中でお金を一番払っているし、経済に占める割合が大きい。

小川 預金通帳より大事なんですね（笑）。

岡ノ谷 情報^{注2}エンゲル係数が高いんですよ。それとまあ人間関係を全部凝縮したものなんでしょうね。だからそういう人にとっては大事だといふのはわかるんですよ。僕の理^{注3}研のラボの向かいのラボの藤井直敬先生が書いた『つながる脳』という本があるんです。彼は、こうやってどんどんつながっていくことで、たぶん自己と他者の区別がどんどんなくなっていくんじゃないかということを言っているんです。

小川 自己と他者の区別がなくなるといふのは、むしろ幼児化していることになるんじゃないでしょうか。

岡ノ谷 そうですね。自己が消えるんじゃないかと思うんですよ。

小川 他者とのつながりを強化する方向に注がれるエネルギーと、自己を探索するエネルギー、このバランスが崩れているのかもしれない。たぶん、本が読まれなくなったというのもそこにつながっていくんでしょうね。自己について深く思索する必要性を感じないなら、本を読まなくてもいいふうに構わない。自己と対話する機会がなくても、いくらでも他人と対話することで紛らわすことができる。

岡ノ谷 対話と言っても情報が伝達されるわけではないんですよ。つながっていることが確認されるだけで、対話ではないんです。

小川 ああ、なるほど。対話ではなく、連絡事項のやりとりでさえない。携帯を駆使する若者たちは、「うんわかった♡」のような、メールに縁のない者には習得できない記号を駆使して、「つながっていること自体」

を日々確認し合っているのですね。

岡ノ谷 そうなんですね。だからこれは必ずしも人間全体が知的に豊かになることとは関係ないですよ。まあ、人間全体が知的に豊かになることがいいかどうかはさておき。

小川^② ですから彼らが絵文字などを上手に使って、一見複雑な心情のやりとりをしているように見えるんだけど、それが果たして言語能力を豊かにするものなのかというと、そうではない気がします。

岡ノ谷 そういう人が圧倒的に増えると、豊かな言語能力は鑑賞できなくなってしまうですね。そうすると、やはり短いセンテンスに収斂^{しめつけ}されますから、文学もそういう方向になるという可能性もあるんですかね。あるいは文学自体からも離れていってしまうでしょうね。

小川 これは言葉の不思議な力だと思うのですが、短さだけで言えば、メールの一行も俳句もそう変わりはないわけです。しかしその間には大きな隔たりがあります。つながりを確認するための記号なのか、文学なのか。同じ言葉でその両方を表現できてしまう。道具であり、芸術である。言葉がそれだけ奥深い威力を持っている、という証拠です。

ネット社会での言葉の使われ方がどんなに味気なくなっても、一行で宇

【課題】

問1 傍線部①「情報習慣病」とあるが、これがどういうことで、なぜ起きると言っているのか。本文の内容に即して答えなさい。

問2 傍線部②「ですから彼らが絵文字などを上手に使って、一見複雑な心情のやりとりをしているように見えるんだけど、それが果たして言語能力を豊かにするものなのか」というと、そうではない気がします。」とあるが、このように「小川氏」が主張する理由を説明しなさい。

問3 あなたは、「現代を生きる若者である側面」と、「国語教師を目指す者という側面」とを持っています。この対談を読んで、あなたはどのような考えのもと、どのような振る舞いをすればいいと考えますか。五〇〇字以内で述べなさい。

宙の摂理を表現できるほどの言葉の豊かな文学性が損なわれることはないでしょう。ただ、問題は人間の方です。豊かな言語能力を養うためには、豊かな文学に触れる以外方法がありません。なのに、目新しい道具にばかり気を取られ、文学に触れる必要を感じない人が増えているのかもしれません。しかし、人間が生み出した言葉がこれほど豊かなものであるならば、人間は本来、その豊さを求めているものなのだ、と信じて作家は書き続けているわけです。

（小川洋子・岡ノ谷一夫『言葉の誕生を科学する』による）

注1 デジタルネイティブ——学生時代からインターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきた世代のこと。

注2 情報エンゲル係数——エンゲル係数とは「家計に占める食糧費の割合」を示すことから、「生活に占める情報の割合」といった意味を示す造語。

注3 理研のラボ——「理研」とは、国立研究開発法人の「理化学研究所」のこと。「ラボ」とは「研究所」のこと。

2023 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 社会専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

私たちの社会のあり方は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で多方面にわたって大きな転換を迫られている。次の文章を読んで、問題(1)・(2)に答えなさい。

「新型コロナウイルスの影響で、日本政府は、特別定額給付金、持続化給付金、家賃支援給付金など、さまざまな救済政策を講じてきている。中でも特別定額給付金は、収入による制限がなく、住民基本台帳に記録されている人なら誰でも10万円の給付を受けることができるという、ベーシック・インカム*の考えに近いものだった。そのため、ベーシック・インカムに^{なぞら}準えて、特別定額給付金を再給付するべきだ、恒久的なものにするべきだ、いや、そうするべきではない、と議論が白熱し、今、ベーシック・インカムが、にわかに注目を浴びている。」

(田中世紀『やさしくない国ニッポンの政治経済学』講談社選書メチエ、2021年より)

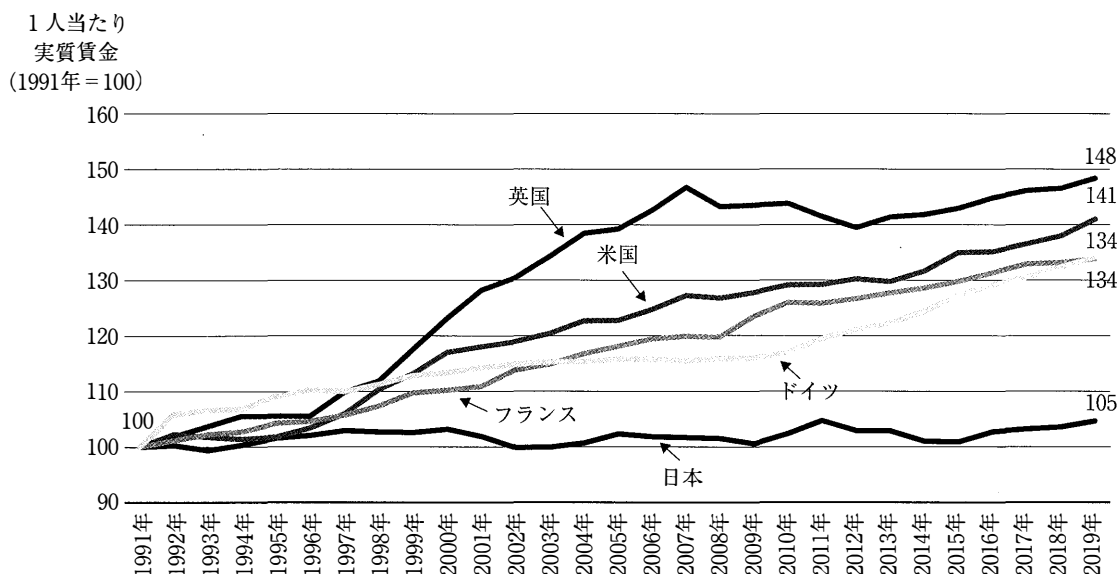
* ベーシック・インカム

政府が全ての人に「最低限度の生活」ができる生計費を無条件で給付する制度。個人を単位に、その人の収入・資産に関係なく、定期的に現金を一律支給する(例えば、子どもから大人まで1人あたり毎月10万円を支給)。欧米諸国の中では試験導入を行った国・州がある。

【問題】(解答は横書きとする)

- (1) コロナ禍でベーシック・インカムが注目を浴びた背景について、資料 a - ①・②をもとに日本における世帯の所得状況から説明しなさい(50字以内)。
- (2) ベーシック・インカムを実現するにあたって主要な課題とされるのが、「財源問題(巨額にのぼる給付金の財源)」と「労働忌避(労働しない人が増加し、社会が成り立たなくなる)」である。資料 b - ③～⑧の日本人の意識調査をもとに「労働忌避」の問題に限定して、現在の日本でベーシック・インカムの導入を進めることができるか、否か、あなたの考えを650字以上700字以内で述べなさい。(「財源問題」は問わなくてよい)

① 実質賃金の伸び率の国際比較 (1991年=100とした1人あたりの指数)

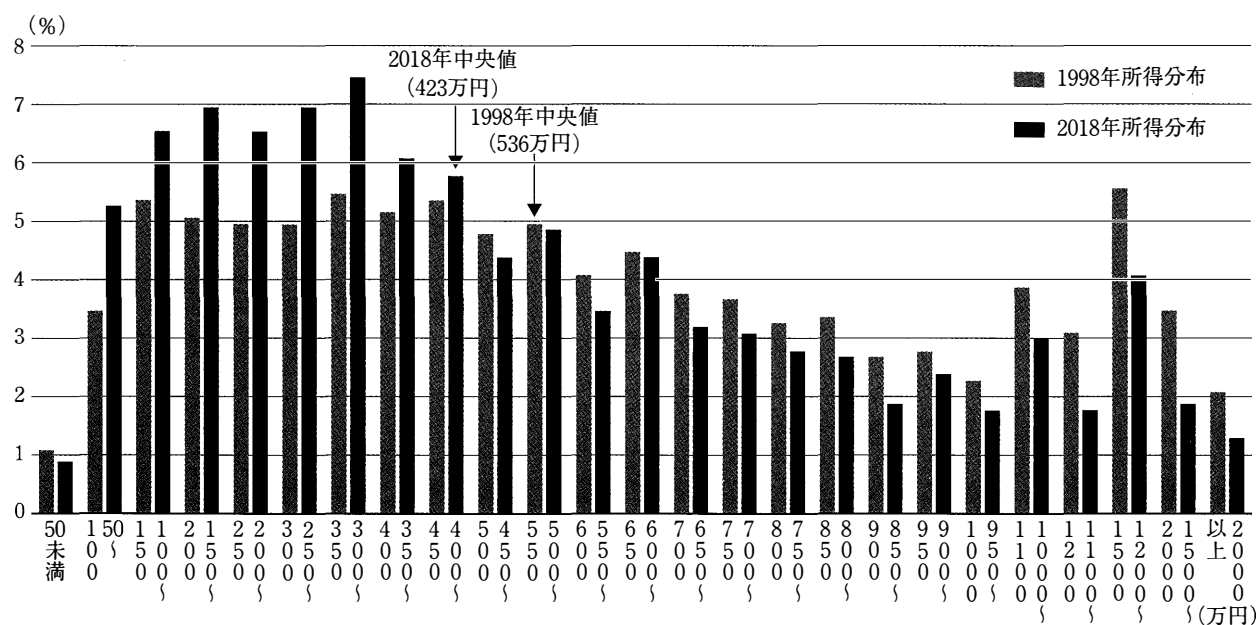


(注) 2019年の米国ドル（購買力平価ベース）により実質化した値。

国民経済計算における「賃金・俸給」を雇用者数で割った上で、雇用者の平均週労働時間に対するフルタイム雇用者の平均週労働時間の割合を乗じて計算された数値。

(「賃金・人的資本に関するデータ集」内閣官房・新しい資本主義実現本部事務局、2021年3月より)

② 日本における所得金額階級別世帯数の相対度数分布（1998年と2018年の比較）



(『週刊エコノミスト』毎日新聞出版、2020年7月21日号より)

【資料b】働くこと・仕事に関する日本人の意識

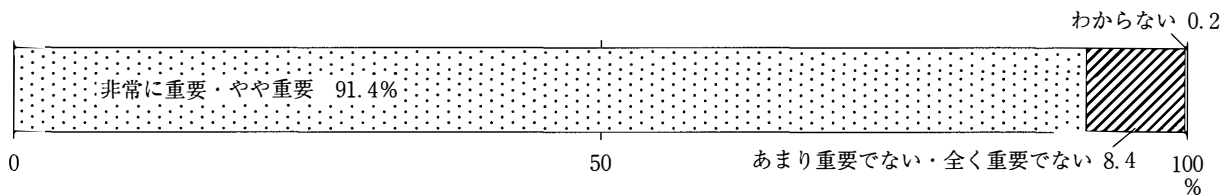
「最大77か国比較から浮かび上がった日本の特徴」（『第7回 世界価値観調査』電通総研・同志社大学、2021年3月）より。このレポートは、世界77か国における調査を国別集計した結果をまとめたもの。日本では2019年に18歳以上の男女個人、約1300人を対象に調査が実施された。

（出典：「世界価値観調査」電通総研）

※（ ）内は、表記の回答に関して77か国を数値の大きい順に並べた時の日本の順位

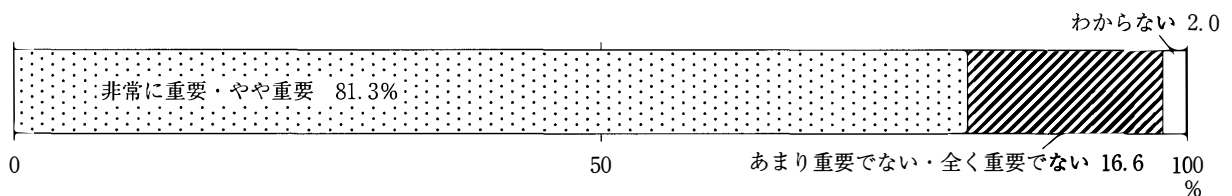
③ あなたの生活に「余暇時間」は重要か

（「非常に重要・やや重要」の回答：スウェーデンが96.0%で1位、日本の91.4%は21位）



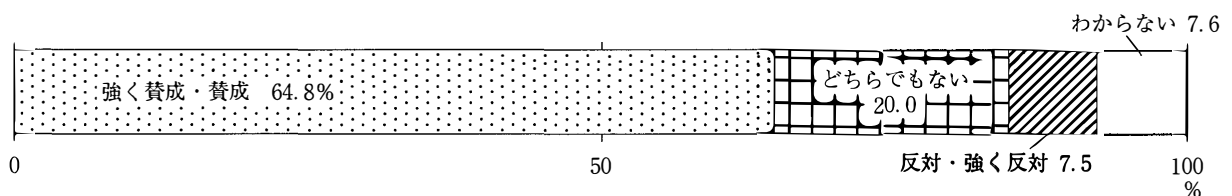
④ あなたの生活に「仕事」は重要か

（「非常に重要・やや重要」の回答：エチオピアが99.7%で1位、日本の81.3%は71位）



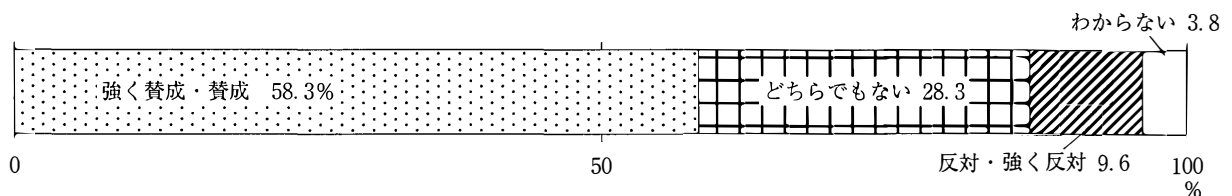
⑤ 人は働かないでいると怠惰になるものだ

（「強く賛成・賛成」の回答：バングラデシュが97.4%で1位、日本の64.8%は50位）



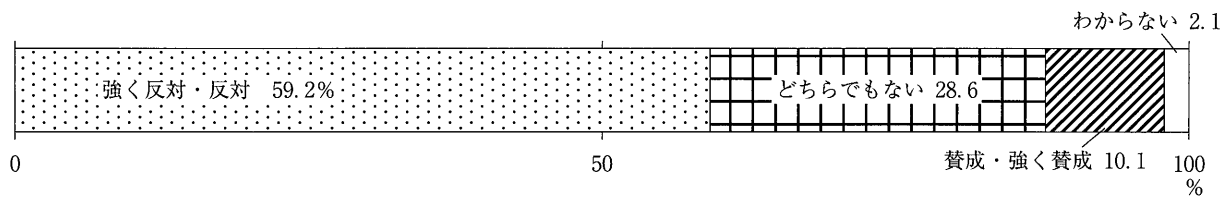
⑥ 働くことは、社会に対する義務である

（「強く賛成・賛成」の回答：ヨルダンが97.2%で1位、日本の58.3%は63位）



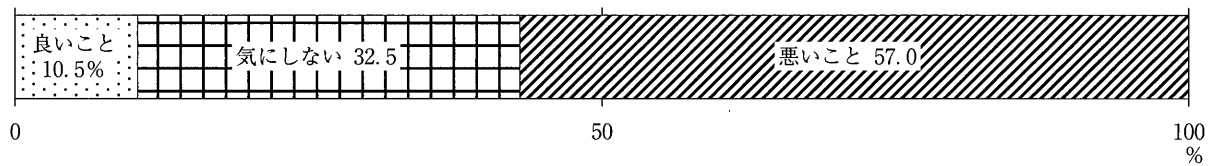
⑦ たとえ余暇時間が減っても、常に仕事を第一に考えるべきだ

(「強く反対・反対」の回答：アイスランドが59.9%で1位、日本の59.2%は2位)



⑧ 働くことがあまり大切でなくなる

(「良いこと」の回答：フィリピンが60.6%で1位、日本の10.5%は74位)



2023 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 数学専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読んで、問1、問2、問3に答えなさい。

古代ギリシャに「ブセーボイ（小石）代数」とよばれる理論がありました。石を並べて公式を証明する技法です。厳密でないという批判もありますが、特に教育上では有用な手法の一つで、もっと積極的に活用してもよいと思います。ここではその入口を案内するだけですが、数列の和に関する諸公式の証明などに、もっと多くの工夫をして活用してほしいと思う題材です。

最も簡単なのは正三角形状に並べた石の個数（図1）

$$T_n = 1 + 2 + \cdots + n \quad (1)$$

で、これを三角数とよびます。その値が $\frac{n(n+1)}{2}$ と表されることは、正三角形を逆向きに合わせればわかります。しかし次のように考えると有用です。図1から

$$T_n + T_{n-1} = n^2 \quad (2)$$

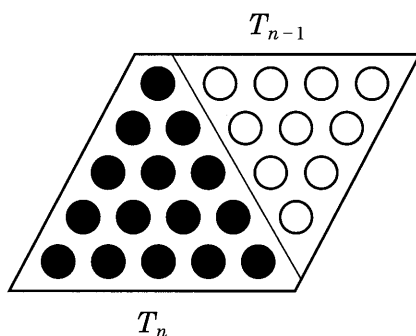


図1 三角数と和

がわかります。他方 T_n の定義から

$$T_n - T_{n-1} = n \quad (3)$$

です。式(2)と(3)から直ちに次の式が出ます。

$$T_n = \frac{1}{2}n(n+1), \quad T_{n-1} = \frac{1}{2}n(n-1) \quad (4)$$

さらに式(2)と(3)の積をとると

$$(T_n + T_{n-1})(T_n - T_{n-1}) = T_n^2 - T_{n-1}^2 = n^2 \times n = n^3$$

です。 $T_0 = 0$ に注意すれば

$$1^3 + 2^3 + \cdots + n^3 = \boxed{\text{①}} = \frac{1}{4}n^2(n+1)^2 \quad (5)$$

となります。②この3乗の和公式(5)は、もちろんいろいろな方法で証明できますが、恐らく上記が最も簡単な（そして教科書にあまり載っていない）方法だと確信します。

（一松信『数の世界 概念の形成と認知』による）

問1

「ブセーボイ（小石）代数」を使って、三角数 T_n の値の求め方が説明されています。もし、あなたがこの求め方を小学校高学年の児童と高等学校の生徒それぞれに教えることになったとします。どのような点を心掛けて教えようと思いますか。双方の教え方の違いを明らかにした上で答えなさい。

問2

上記の内容を踏まえて、

①

に当てはまる計算過程を、数学を苦手とする高等学校の友人に教えるように説明しなさい。

問3

下線部②「この3乗の和公式(5)は、もちろんいろいろな方法で証明できますが、恐らく上記が最も簡単な（そして教科書にあまり載っていない）方法だと確信します。」とありますが、高校で学んだ数学を用いて、他の方法により3乗の和公式(5)を証明しなさい。

2023 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 理科専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

問題 1 植物の中に含まれている香りの成分を取り出す技術に関する以下の文章を読んで後の問に答えなさい。

香りは化学物質であり、一般的に香料と呼ばれています。私達の身近にある良い香りの多くが自然界から得られるものです。これら自然界から得られる「香り」を広く活用するためには、「香り」を取り出す必要があります。

良い香りの植物の代名詞のようなラベンダー（図1）は紫の花だけでなく葉や茎にも「香り」の成分を含んでいます。「香り」の成分は大きく2つに分けることができます。1つは水に溶ける成分であり、もう1つは水に溶けない成分です。水に溶けない成分の多くは、油には溶けるので、これらは「油に溶ける成分」ということもできます。「香り」の成分の多くが「油に溶ける成分」であることから、ラベンダーから「香り」の成分を取り出す際にはこの「油に溶ける」成分が中心になります。「油に溶ける」成分は、決して油ではありませんが、一般的に「精油」と呼ばれます。市販されているラベンダー精油は薄い黄色の液体です。ラベンダー等の植物の中に含まれている香りの成分を取り出す技術は、化学や薬学の世界では非常に重要です。以下にその技術の幾つかを紹介します。



図1 イングリッシュ・ラベンダー

まず蒸留という方法についてお話しします。蒸留は、複数の液体状の化合物が混じった状態から純粋な化合物を分離する方法です。蒸留法はお酒、特に蒸留酒の製造から始まりました。現在の実験室で使われる簡単な蒸留の装置は、次の説明に示すようなものです。ガラスでできたフラスコに果物や穀類を発酵させてできた液体、すなわち醸造酒を入れます。醸造酒の主な成分は水であり、発酵でできたエチルアルコールが次に多く含まれていますが、果物や穀類からの成分もたくさん含まれています。もちろん香りの成分も含まれています。このフラスコを熱すると、含まれている成分が気体になります。気体は装置の中を上昇して、フラスコの側面にある筒状のガラス管（冷却器）の方に流れていきますが、ここには冷たい水が流れているので、気体は冷やされて液体になります。液体が気体になる温度を沸点と言いますが、エチルアルコールの沸点は78.3℃で、水の沸点100℃より低いため、フラスコを温めていくと、フラスコの上部に取り付けられた温度計の温度が（①）℃程度になると冷却管の中にエチルアルコールの気体が流れてきます。冷却管がよく冷えていれば、エチルアルコールの気体は直ちに（②）して液滴になり、それを受ける三角フラスコの中に液体となって溜まります。このような操作を蒸留と言います。

ラベンダーの花や葉のように液体でない原料から香気成分を取る場合に、通常の蒸留装置を使うとどうなるでしょうか？

A。したがって、普通の蒸留装置をそのまま使うことはできません。この問題を解決するのが水蒸気蒸留という方法です。

図2は水蒸気蒸留装置の例です。基本的な原理は蒸留と変わりません。大きく違うのは、試料を入れる容器（Ⅰ）です。容器の底には水を入れます。その上に

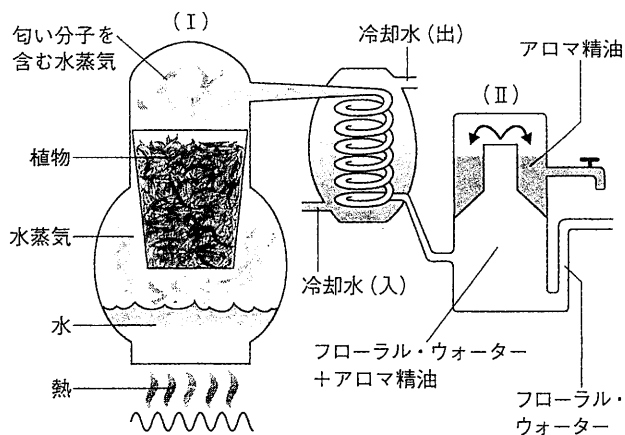


図2 水蒸気蒸留の装置

籠があり、そこにラベンダーの花や葉そして茎の部分を入れます。籠があるので、試料は水に接していません。残りの部分は蒸留装置と同じです。容器（Ⅰ）を加熱して、水を沸騰させ、水蒸気を発生させます。ほぼ100℃の水蒸気でラベンダーは蒸され、含まれる香気成分がラベンダーから（③）します。ラベンダーに含まれるおもな香気性分子に酢酸リナリルがあります。ラベンダーには色々な分子が含まれますので、実際には酢酸リナリルだけではなく、たく

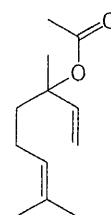


図3 酢酸リナリル

さんの種類の分子が蒸留され、それらが液体となり、容器（Ⅱ）に溜まります。酢酸リナリル（図3）という分子はエチルアルコールに比較して分子量が大きい分子です。分子は複数の原子からできており、各原子は重さ（原子量）を持っています。酸素および水素原子の原子量は各々16と1ですので、水分子の分子量（重さ）は18ということになります。たいていの場合、分子量の大きい分子ほど重くなるので、気体になりにくくなります。つまり、沸点が高くなります。実際、酢酸リナリルの分子量は196で沸点は220℃ですが、エチルアルコールでは分子量が46で、沸点は78.3℃です。水の沸点は100℃なのに、なぜ酢酸リナリルは水蒸気蒸留で気体になり、そしてその液体を採ることができるのでしょうか？ここに水蒸気蒸留を使う一番大きな利点があります。

高等学校の化学で習う法則の一つにドルトンの分圧の法則があります。AとBの気体があり、その気体分子同士は結合したりせず、混合したときに互いに独立に振る舞うとします。Aの気体の分圧が P_a であり、Bの気体の分圧が P_b であるとする、それらを混合した気体の圧力 P は、 $P = (④)$ と表されます。混合した気体中の各気体の圧力を分圧と言います。ドルトンの分圧の法則とは、「混合気体の全圧は、その成分気体の分圧の和に等しい」というものです。匂い分子の多くは、B、ドルトンの分圧の法則はかなりよく成り立ちます。水に溶けにくい分子を疎水性の分子とも言います。

ラベンダーに含まれる匂いの成分は植物体では液体として存在しています。ここに高温の水蒸気（といっても100℃以下）をあてると、それらの成分が気体になり、容器（Ⅰ）の中に揮発します。それでは気体になるとはどういうことでしょうか？話を簡単にするためにラベンダーには水と酢酸リナリルしか含まれていないとします。図2の装置は完全には密閉されていませんので、容器（Ⅰ）内の圧力は大気圧（760 mmHg）より大きくはありません。どのような液体でも、幾分かは気体になろうとしています。その程度を蒸気圧と言います。当然ですが、蒸気圧は温度によって変わり、温度が高いほど、蒸気圧は高くなります。酢酸リナリルも25℃でごくわずかな蒸気圧0.1 mmHgを示しますが、99.6℃になると12 mmHgを示します。99.6℃での水の蒸気圧は748 mmHgであり、Cすなわち酢酸リナリルを、水蒸気蒸留なら、水の沸点より低い99.6℃で十分蒸発させることができます。植物に含まれるおもな香気成分は水に溶けませんが、中には水に溶ける香気成分もあり、また疎水性分子もごくわずかに水に溶けますので、図2の容器（Ⅱ）に溜まる水溶液にも香気成分が含まれます。それは一般的にフローラル・ウォーターと呼ばれ、有効活用されています。

水蒸気蒸留は非常に有用な方法ですが、100℃といえども加熱してしまいます。香りの成分には、熱に弱いものもあり、このような場合には、水蒸気蒸留以外の方法を使う必要があります。そうした方法の一つが抽出法です。抽出法では、種々の媒体に香りの成分を溶かし込みます。使用する媒体により、大きく2種類（有機溶媒を使う方法、

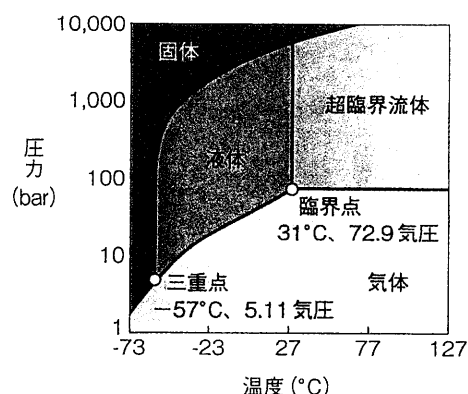


図4 二酸化炭素の三態

超臨界流体を使う方法)に分けられます。熱による変性をほとんど無くする方法が、超臨界流体抽出法です。さて図4に二酸化炭素の三態を示しました。横軸が温度、縦軸が圧力を示しています。温度が31℃で、圧力が72.9気圧の点より右上の状態では、二酸化炭素は気体でも液体でもない、その両方の性質を持った状態になります。この境の点を臨界点と言います。臨界点以降の状態ということから、右上の領域を超臨界状態と言います。超臨界状態では物質は液体とも気体とも異なる特殊な状態になりますので、その状態を超臨界流体と呼びます。超臨界流体の二酸化炭素の重要な性質の一つが、物を非常によく溶かすということです。一旦、他の物質を溶解した後で、温度と(⑤)を下げれば、超臨界状態から二酸化炭素は気体になりますので、溶媒抽出の場合と異なり、溶媒が残ることはありません。溶媒抽出の場合には、どうしても有機溶媒が大気中に漏れてしましますが、二酸化炭素であれば危険性はありません。気化した二酸化炭素は回収して次の抽出に使うこともできますので、地球温暖化に悪影響を与えないように作業することもできます。また、何と言っても、低温で処理できますので、植物体に含まれる香りの成分の大半を壊すことなく、抽出することができます。また抽出中に酸素と触れ合うことが少ないため、酸化しやすい成分もそのままの形で抽出できるという長所もあります。分子量が大きい香りの成分や水溶性の成分は水蒸気蒸留ではとれませんが、二酸化炭素を使うとこれらの成分も取れますので、植物に含まれる多くの成分が抽出できます。

香りの成分を取り出す最も原始的かつ単純な方法は、圧搾法です。オレンジの皮を搾るとオレンジの香りの強い油状の液体が取れます。実際に柑橘植物から香りの成分はこのようにして取られています。

これまでに述べた方法以外に、油脂に吸着させる方法なども使われてきましたが、現在ではほとんど使われていないようです。現在最も広く使われている方法はやはり水蒸気蒸留です。

平山令明『「香り」の科学 匂いの正体からその効能まで』講談社より(一部改変)

問1 文章中(①)～(⑤)に入る、適当な語句、数値、式等について各々答えなさい。

問2 文章中のAには、通常の蒸留装置で使うフラスコ中に、試料である葉や花を入れて加熱した際に推測される、葉や花の変化の様子や、試料に含まれる物質の変化の様子が、その理由と共に書かれていました。どの様なことが書かれていたか考え、80字以内で答えなさい。(なお実験は、安全上の措置を取った上で行います。)

問3 文章中のBには、ドルトンの法則がかなりよく成り立つことの理由について、分子の性質に基づいて書かれていました。どの様なことが書かれていたか、本文に即して50字以内で答えなさい。

問4 文章中のCには、酢酸リナリルは水が存在すると大気圧760 mmHgで水蒸気蒸留させることができる理由について書かれていました。どの様なことが書かれていたか、本文に即して60字以内で答えなさい。

問5 文章中の下線部のように言える理由について考え、100字程度で答えなさい。

問6 二酸化炭素の超臨界流体を用いた抽出法は、どのような香りの成分抽出に適しているか、本文に即して70字以内で答えなさい。

問題 2 水の沸点を調べる実験についての以下の文章を読んで後の問に答えなさい。

じっさい、学校で水を沸騰させて、その中に温度計をいれてその温度をはかっても、なかなか 100℃にはなりません。いくら低目の 97℃ぐらいでとまってしまうのがふつうなのです。

そこで、自分たちで実験をやった子どもたちはこういうようになります。

「水は、100℃で沸騰するっていうけど、本当は 97℃で沸騰するんだよね。だってぼくたちが実験したらそうなったんだもん」

これでは試験のときなど困ってしまいます。「水の沸点は 100℃」と書かないと点をひかれてしまうからです。そのことを知っている要領のよい子は、こういうようになります。

「私たちが学校で実験したら、水は 97℃で沸騰したけどさ、ほんとうは 100℃で沸騰するのよね。実験ってインチキなのね」

しかしこれも困ったことです。「実験ってインチキだ」ときめつけてしまったら科学というものの足場がなくなってしまうからです。

いったい、こういうとき、私たちはどうしたらよいのでしょうか。

それにはいくつかの方法が考えられます。ひとつは「学校ではこういうまぎらわしい実験はしないことにして、教科書に書いてあることをおぼえさせるだけにする」という方法です。ずいぶんけしからぬ方法と思われるかもしれませんが、これがいちばん現実的な方法かもしれません。

もっとも、実験をやらなければテスト用の知識の混乱はふせげるにしても、やはり実用的な知識の上では困ります。多くの先生方が水の沸点の実験指導をうまくできなかったことがそれを示しているともいえます。^①テスト用の知識だけではやはり役に立たないのです。

それなら、実験してなおかつ混乱がおこらないようにするにはどうしたらよいでしょう。

それにはまず、先生方の実験技術を向上させたり、学校の実験設備を改善させたりすることが考えられます。それなら、その場合、実験をどのように改善したらよいのでしょうか。

私たちがふつうの方法で水の沸点をはかっても、ちょうど 100℃にならない理由は、大きくいって二つにわけて考えることができます。

その一つは、「私たちがふつうに実験するときのやり方では、水の沸騰する温度そのものが、100℃とかなりちがっているのかもしれない」ということです。そしてもう一つは、「温度そのものはほとんど 100℃とかわらないにしても、その温度のはかり方が不正確なのかもしれない」ということです。

私たちがふつう実験に使う水は水道の水で、これは科学者のいう純粋な水とはかなりちがいます。いろいろな不純物が水の中にまざっているのです。それに、部屋の中の気圧の変化も考えなくてはいけないのかもしれませんが。また、私たちの使っている温度計はあまり正確でないのかもしれませんが、沸騰している水の中に温度計をいれるいれ方もくふうしなくてはいけないのかもしれませんが。

じつは水の沸点は、飲料水になる程度なら、少しぐらいの不純物がはいっていてもほとんどかわりません（塩からい海水を沸騰させても、その温度は 0.6℃ほど高くなるだけです）。気圧の変化も、平地でならたいした影響をもたらしません。問題はほとんど温度のはかり方にあるようです。

さて、湯水の温度をはかるにはどのようにしたらよいのでしょうか。図A（イ）のように温度計の中の液柱が全部湯水の中につかるようにしなくてはいけないのでしょうか。それとも（ロ）のように下の「溜め」の部分さえ、湯水につけておけばよいのでしょうか。あるいはまた、20℃くらいのところまで湯につけるのが正しいばかり方でしょうか。

②これは（イ）のようにするのが正しいのです。しかし学校で水の温度をはかるときこうするのはたいへんです。温度計の100℃の目もりのところまで水の中につけこむようにするには、水の深さを30センチ近くにしなくてはならないからです。ふつうのビーカーなら、温度計の目もりの0℃か、せいぜい20℃ぐらいのところまでしか水の中につからないでしょう。

それなら、温度計の液柱が水の外にとび出ている場合、温度計のよみはどれほどくるってしまうのでしょうか。

「注 アルコール温度計」のばあいについて簡単に計算してみましょう。
アルコールは1℃あがるごとにほぼ1/1000膨張します。ですから、100℃あがれば100/1000、つまり1/10だけ膨張する計算になります。つまり、図Bの0℃から上の部分（X）にある液の体積は、0℃より下の部分（A）にある液の体積の1/10もあるのです。

そこで、もし、この温度計をひき上げて、0℃のところが水面にくるようにしたら、どうなるでしょう。そのときの室温が20℃だとして、また計算してみましょう。

Xの部分の液は100℃から20℃にまでひやされるわけですから、かなりちぢむことになります。80度分さがるのですから、だいたい1/1000の

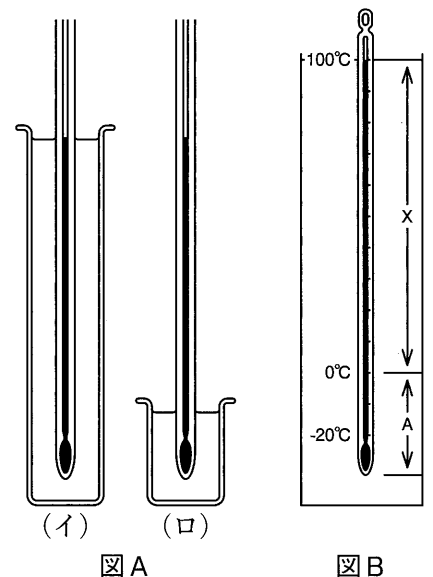
ア 倍、つまり イ /100 ほどちぢむわけです。

イ /100 といえば100℃の目もりのうちの イ ℃分です。つまりこんなふうにしてはかると、水の温度がほんとうに100℃になっていても、温度計の目もりは ウ ℃にしかならないというわけです。

しかし、じっさいにはこんなに大きくいちがいがでることはほとんどありません。それは、水がはげしく沸騰しているときには、水面からどんどん温度100℃の水蒸気がでてくるので、温度計の水面の上にとびでている部分の温度が20℃のままということはほとんどないからです。そのことは、温度計の上の方を手で持って支えていると、水蒸気のために熱くて持っていられなくなることでわかります。

こうして水面の上にとびでている部分の温度計の液の温度が、平均して70℃ぐらいになっていれば、液は100℃のときとくらべて、その差30℃分だけちぢみ、 エ ℃をさすことになります。ふつう学校でやる実験は、こんなふうになっているといってよいでしょう。

注…「アルコール温度計」に入っている「アルコール」はエタノールではなく、通常は灯油の一種であるケロシンなど、沸点が100℃を越えるものが使われている。



図A

図B

問 1 下線部①について、「役に立たない例」を、本文に即して答えなさい。

問 2 下線部②について、なぜ（イ）のようにするのが正しいのか簡潔に答えなさい。

問 3 空欄

ア

 ～

エ

 について、最もふさわしいと考えられる適切な整数を入れなさい。

問 4 小学校で「水の沸点が100℃である」ことを理解するための授業を行うにあたり、どのような指導が必要と考えられるでしょうか。この文章を踏まえて、あなたの考えを簡潔に述べなさい。

二〇二三年度 推薦入学者選抜

教育学部学校教育課程 音楽・美術専修

教育学部発達教育課程

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読んで、以下の問に答えなさい。

教育という字は、「教」と「育」に分けることができる。そして、興味深いことは、育という語は、育てる、育つ、と他動詞にも自動詞にも用いられることである。

教育ということには、教育する側と、教育される側とがあり、教育する方から考えると、やはり自分が「教える」という行為に重点がおかれ、その後で、「育てる」ということが考えられるが、「育つ」となると、これはその本人の自発的なはたらきであるから、教育とは関係がない、あるいは考慮の外にある、ということになりがちである。

しかし、教育ということを深く考えるならば、そのベースに、教育される側に潜在している自ら「育つ」力ということとを無視することはできないのではなからうか。「教育」ということは、これまではどうしても、教育する側の視点から発言されることが多かったので、何を、いかに教えるかに重点がおかれがちで、「育つ」はおろか、「育てる」ことの方さえ、軽視される傾向が強かったのではなからうか。

教育を教育される側から見ると、ということは困難なことである。これまでの教育論を見ると、教師が生徒に何をすべきか、何をしてやるか、いかにするべきか、などと常に教師から生徒への一方向のはたらきかけの姿勢が目立つのである。しかし、すでに戦前において木村素衛氏が⁽¹⁾「教育とは、精神の自覚的自己発展が、他人の助力の下に遂げられるという根本的に矛盾した概念である」(木村素衛『国家に於ける文化と教育』岩波書店)と述べているのは、注目に値する。

「精神の自覚的自己発展」という彼の哲学的表現は、今日、臨床心理家が好んで使う「自己実現傾向」などという用語と、相当に似通ったものとして受けとめられないだろうか。そして、また彼が「根本的に矛盾した概念」として教育をとらえていることは、私が心理療法には常に二律背反が存することをすでに他に論じてきたが、それとも通じる感じを与えるのである。木村氏の考える「教育」は、心理臨床の側から見る教育への通路をひらいてくれていると感じられる。

現代社会の一員として生きてゆくためには、人間は実に多くのことを身につけねばならない。膨大な知識、そして、社会人として暮らしてゆくのに必要な規範、対人関係を維持する能力などを身につけねばならない。それを思うと、大人としては子どもに「教える」ことに熱心にならざるを得ない。教育において、教えることが中心になるのも当然とも言えるだろう。

しかし、ここで反省しなくてはならないのが、一般的な「教え」に乗ってこない、あるいは、乗れない子どもたちがいるということである。それと、あまりにもわれわれ大人が既成の知識体系を注入することに熱心になりすぎて、子どもが個々にもっている個性を壊すことになっていないか、ということである。そして、この両者は案外関係しているのである。極言すると、個性の強い子どもの方が、既成の知識を注入する「教え」には乗りがたいと言えるからである。

(2) そこで、教育における「育てる」、「育つ」側面の重要性が浮かびあがってくる。知識を注入するのではなく、自らの力で知識を獲得できるように「育てる」ことを考えよう。あるいは、自らの力で「育つ」ことを援助できないかを考える。

しかし、この際、木村素衛氏のいう「矛盾」の存在も忘れないようにしよう。このような教育に対する考えに、心理臨床の実際が大きくかわってくるのである。

心理臨床の場合、どうしても一般的な「教える」システムからはみ出した子どもに接することが多い。最初の頃は、そのような子どもに対しても、「なすべきこと」を教えようと試みたりもしたのだが、失敗を繰り返しているうちに、われわれは「教える」ことを焦るよりも、根本的には、「育つ」のを待つ方が、はるかに効果的であることを知らされたのであった。そして、それは単に効果的であるということを超えて、教育全般に対しても、「育つ」ことの重要性をもっと認識すべきであるという反省へとつながってきたのである。

(河合隼雄『子どもと学校』による)

問一

傍線部1「教育とは、精神の自覚的自己発展が、他人の助力の下に遂げられるという根本的に矛盾した概念である」とあるが、木村氏が考える教育について、「教える」と「育つ」という語を用いて一五〇字以内で説明しなさい。

問二

傍線部2に示された筆者の考えを参考にしながら、教育を考える際に、「育つ」ことについてどのように考えるか、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

2023 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 体育専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読んで問いに答えなさい。

学校では、教室外での学習の際、子どもに「体育座り」と呼ばれる座位を実施させることが多い。文部省（1965年当時）の『体育科（保健体育科）における集団行動指導の手引き』^{（注1）}の中で例示されたことから、そう呼ばれ、全国的に普及したと考えられている。

この座位は集団行動での「休め」の場面を想定している。それは休憩時間ではなく、「目的を持って待機する」時間である。体育の授業では、安全で効果的な授業とするための、「健康状態の確認」「事故防止のための注意」「学習に関する説明」といった教師による講話の時間である。そのため、子どもの中に緊張感、整然さ、落ち着きといった雰囲気が必要となる。それらの生起を意図した座位であり、「体育座り」と呼ばれているが、この機能を求めて体育の授業以外の教室外での学習でも実施されている。

ところが、体育座りについて「子どもの心身に有害だから、実施すべきではない」という論調が新聞やテレビといったメディアで増えている。もっとも、これらの根拠には不可解な点が多い。

まず、「集会や講演会で」「スカート着用時に」「1時間も」といった実施場面の指摘である。確かに酷い実施事例であるが、「体育の」や「待機の」という想定されている実施場面からの大きな逸脱が問題であり、座位の問題ではない。座位については、「身体を屈曲し続けると内臓に悪い」など身体への害について指摘がある。しかし、どのメディアも具体的な病事例や検証データの提示はなく、「専門家の意見がある」という表現に留まっている。そして、学校事故事例検索データベース^{（注2）}にその事例は見あたらない。関連して、「身体に負担をかけない」とする座位の提案もあった。もっとも、仮にそうであったとしても、旅行者血栓症^{（注3）}の事例から、「し続ける」ことで身体不調は生じる。

このように、体育座りについて「実施すべきではない」という主張に合理性はない。しかし、誤った実施の実態があることも明らかである。議論は必要だが、論点を正しく修正しなければならない。ちなみに、手引きは「必要がない場面で、不自然と思われるような画一的な行動様式を強要することは、決して望ましくない。」としている。問題のある実施の全てはこれに当たる。一方で、「それぞれの状況に応じて的確な集団行動がとれるように指導する。」としながら、その具体例の提示はない。論点はここである。これを専門家が示せば、この不毛な議論は終わる。

そして、それは急がれる。学校生活には体育の授業以外にも「子どもの安全を守るため、子どもの中に緊張感、整然さ、落ち着きといった雰囲気を創る必要がある」という場面が多々あり、そして突然に訪れる。2011年3月11日14時46分、この数分後、東日本のほとんど

の学校で、教師は子どもを校庭や体育館に集め、点呼を行い、「命を守るため」の行動を指示した。この時にどのような集団行動が求められ、それができるために日頃からしておくべき準備が何かは言うまでもない。これ以上、論点を誤った議論が続くと、子どもの安全が守れなくなることが危惧される。

ところで、「外国では実施されていない」という指摘もあった。真偽の議論はともかく、「実施されていない」と「悪い」は別である。日本の学校では子どもに公共心などを培うために校内清掃をさせる。もちろん、衛生や人権に配慮した方法での実施である。校内清掃を実施している国はわずかであるが、私たちはこの教育意義を知っていて、やめることはない。むしろ、「特筆すべき日本の教育活動」として世界に伝わり、このことを知る外国の教育関係者からは感嘆を得ている。体育座りについても、適切な実施方法を考え、世界に発信したいものである。

注1) 初版は1965年であるが、本稿は最新版である1993年の改訂版を参考にしている。

注2) 学校事故に際し災害共済給付を行っている日本スポーツ振興センターが、その事例を基に学校管理下における災害や事故を整理したデータベース。

注3) エコノミークラス症候群とも呼ばれる、長時間座っていることで血行不良や血栓が発生して身体不調を起こす症状。旅行者の移動中の事例が多いことからこれらの通称となっているが、旅行中でなくても起こる危険がある。

問1 全文の要旨を200文字以内でまとめなさい。

問2 著者の主張に対するあなたの考えに基づいて、次の二題から一題を選択し、600文字以内であなたの考えを述べなさい。

問2-1 著者の主張への賛意や同意が強いならば、その理由を説明するとともに、あなたが教員を目指す学校種（小学校、中学校、高等学校など）での「体育座りの適切な実施方法」について、あなたの考えを述べなさい。

問2-2 著者の主張への反意や疑問が強いならば、その理由を説明するとともに、あなたが教員を目指す学校種（小学校、中学校、高等学校など）での「教室外での学習の際の適切な座位」について、あなたの考えを述べなさい。

2023 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 家庭専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章は京都新聞の社説である。よく読んで次の問いに答えなさい。

修理する権利 持続可能社会へ掲げたい

ネジを回して分解し、自分で修理したい。

欧米では、①「修理する権利」を求める動きが広がっているそうだ。

電気・電子機器や自動車などを、メーカーを通さずに、利用者や街の電気店、修理業者らが修理するのを権利として認めてほしい。そんな声が高まり、議会に働きかける運動になっている。

愛着のあるものは捨てられない。修理し部品を交換して長く使い続けたい。そこには、買い替えを促す消費社会への反発や疑問もうかがえよう。

国連の専門機関によると、スマートフォンなど電気・電子機器のごみの量は、2019年に5360万トンに上り、5年間で2割超も増えている。主な要因として、消費の増加とともに、機器の寿命の短さ、修理の選択肢の少なさを挙げている。

電子ごみなどには環境汚染の原因となる金属が含まれており、見過ごせない問題だ。

昨年11月、欧州連合（EU）は消費者の「修理する権利」を支持する規則案を採択した。循環型経済行動計画の一環で、スマホやパソコンなどの製品設計に、修理する権利を考慮するよう求めているところに目を向けたい。

実際に欧州では、利用者が部品を交換して修理できるスマホを販売するメーカーが出てきている。

「修理する権利」の支持者たちが求めるのは、修理しやすい製品設計のほかに、修理するための診断ツールやマニュアルの公開、メーカーが提携先などに限定する修理業務の開放や部品の提供などだ。

こうした訴えが続く中で、独占禁止法を扱う米連邦取引委員会（FTC）が先月、修理の選択制限を防ぐ規制を打ち出した。バイデン大統領が大企業による市場支配に歯止めをかけることを掲げ、競争を促した大統領令に応えたものだ。企業による制限が高額の修理費につながっていると利用者から批判されていた。

米大手メーカーの反発は強いようだ。巨大IT企業も安全性の低下や利用者への危険、精密システムの障害を引き起こしかねないと主張してきた。知的財産権に抵触するともいう。

一方で米マサチューセッツ州では12年に自動車修理権法が制定され、多くの州議会で議論が起きている。

しかし、日本での議論はあまり聞かない。環境省の中央環境審議会作業部会で、家電リサイクルをめぐって学識者が「修理して長く使う、長寿命化が必要」と発言しているが、活発な議論になっていない。

もっと修理に目を向ける時ではないだろうか。

安全性への懸念や法律上の制限もあるが、正しい知識や方法、手順などを踏まえば問題ないはずだ。そのためにも、メーカーの情報公開や部品提供が重要で、修理しやすい製品づくりも求められよう。

かつて、ものを修理しながら大切に使ってきた暮らしの文化があった。②これから持続可能な社会をつくっていくためにも、修理する文化を時代に合わせ仕立て直してはどうだろう。

2021年8月8日京都新聞

問1 欧米で広がっている下線①「修理する権利」とはどのようなことか。文中の言葉を用いて50字以内で書きなさい。

問2 スマートフォンなど電気・電子機器のごみの量が増加する要因にはどんなことがあるか。文中の言葉を用いて50字以内で説明しなさい。

問3 「修理する権利」を行使するために、具体的にはどのようなことが求められているのか。文中の言葉を用いて80字以内で述べなさい。

問4 欧米の「修理する権利」を求める動きに対し、日本での動きはどうなっているのか。100字以内で書きなさい。

問5 下線②「これから持続可能な社会をつくっていくためにも、修理する文化を時代に合わせ仕立て直してはどうだろう」について、あなたの考えを、具体的な事例や経験などを含めて、400字以内で述べなさい。

2023 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 英語専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の英文を読んで、後の設問に日本語で答えなさい。

One Day ...

It's never possible to predict the future, I said. But we can make some pretty safe guesses. Here are four of them.

We're going to see machines speaking to us more and more. Already, in a car, a satellite navigation system tells us out loud which way to turn. All kinds of other devices will talk to us one day. If I leave a light on in my house, as I go through the front door, some digital device will remind me to go back in and switch it off.

We're going to find ourselves talking to machines more and more. Already there are answerphone systems which will record and playback when we tell them to. And there are washing machines that will boil and spin at our command. To do this, they have to have very good software which will recognize voices, capable of understanding not only our words but also our accent. At present, this software is very limited in what it can do; but one day it will be able to handle everything it hears.

We're going to see machines translating between languages more efficiently. There are already several websites which offer a computer translation service, but the results are often not very good. They'll get a lot better as time goes by.

We're going to be able to see what happens to language in the brain. Already it is possible to use a special scanning machine to see which parts of the brain are most active when we speak, listen, read and write. One day we'll be able to pinpoint individual sounds, words, and sentence patterns.

(*A Little Book of Language* by David Crystal Copyright © 2010 by David Crystal .
Reproduced with permission of Yale Representation Ltd . through PLSclear .)

【設問 1】

本文で挙げられている 4 つの “pretty safe guesses” とは何を指しますか。日本語100字以内でまとめなさい。

【設問 2】

著者の説明する “pretty safe guesses” には、外国語教育に影響を及ぼしそうな内容が含まれています。これらが実現した場合、日本の英語教育はどのように変化するでしょうか。または、変化しないでしょうか。日本語700字以内で論じなさい。

二〇二三年度 推薦入学者選抜

人間科学部 人間科学科・心理学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

現代社会における変化はひとつの組織や社会に帰属する状態から、複数の組織や社会に足を掛けて活動することへの変化として特徴づけることができるでしょう。それは、世界がつながりあい、地域社会、国家、職場、家族、宗教などの従来の帰属集団が流動的になる一方で、これまでは無関係だった人々が、さまざまな活動によって互いに結びつくようになるということです。

これから人間同士は、土地や宗教、職業といったものの帰属によってだけでなく、積極的に関わる活動によって結びついていくことになっていきます。

人間だれもが、かならず帰属している集団や場所があるとすれば、それは人類という大きな集団であり、地球という大きな場所になるでしょう。そして、「人類」と「地球」という大きな帰属集団を土台として、活動によって具体的に多様な人と関わるようになるのです。

逆に言えば、どこかに単に帰属するだけでは、これからはしつかりとした人間関係を形成するには不十分になっていくのです。特定の人生の流れ——たとえば、優秀な高校を出て、よい大学の学部を卒業してすぐに大企業や官庁に就職して、そこで長く勤めあげるといった流れだけがよい人生だ、という時代はもうとくに終わっています。もしかすると、もうそれは「エリート」とさえ呼ばれなくなっています。もっと多様な経験をして、多様な人と出会い、さまざまな活動に積極的に取り組んだ人の方が頼りになるのですから。

こうした社会の変化は、心のあり方にも違いを生んでいきます。今の自分が何者であるか、すなわち自己同一性（アイデンティティ）よりも、これから何をするか、その活動を通してこれから何になるかに重きが置かれるようになります。新しい活動を行っていくこと、そうして変わっていくこと、すなわち「自己変容」に人が関心を持つようになります。

自己変容は、従来は子どもや若者のみの特性だと考えられてきました。しかし、平均寿命が延び、たくさんさんの情報や他者と出会うようになった現代人は、一生変容していく機会に恵まれています。しばしば言われるように、学びも生涯にわたるものとなるのです。これは人生のサイクルで言えば、子どもの頃に人は学んで、学び終えてから社会で働くという形ばかりがすべてではなくなることの意味します。かつて子ども時代はもっぱら学校に行くように推奨されました。それは、さらに昔に子どもが大人の労働に駆り出されて、学ぶ機会を奪われていたからです。今でも貧しい国ではそうです。それゆえ、子どもを学校のなかで庇護（ひご）して、十分に成長してから社会に出すという形がとられていました。

しかしこれからは、学校はその外の社会との結びつきが強くなり、子どもも学校の外の社会とのつながりの中で学ぶことが増えるでしょう。

その傾向はまず大学に現れています。大学は以前よりもはるかに他の社会との結びつきが強くなりました。国内外の研究機関との連携が強まっているのはもちろんです。企業とも研究開発の次元だけでなく、インターンなどキャリア教育を通しての協力関係も強まっています。起業する研究者も多く、今や学生や院生が会社を起こすことも珍しくなくなりました。地域創生や持続可能な開発、被災地支援などの目的で、地域社会・地方公共団体・NPOのような非営利組織と連携する機会も増えています。また、留学生の数はますます多くなり、多国籍化しています。海外の教育機関と直接に交流する機会も頻繁になりました。そして高校と大学とが協同して教育を行う高大連携も増えてきました。

大学では、研究、教育、産業、地域交流、ボランティアなどが総合された形での活動が増えています。研究教育も学部や専門の壁を越えた超領域的・分野横断的なものが増えています。今や、文系・理系といった区別が意味をなさない研究テーマが増えてきたのです。人工知能や環境問題、地域創生などは典型的にそうした事例です。

「教養」の意味もかなり変わってきました。以前の大学では一、二学年に教養課程があり、それを修了して専門の勉強をすると考えられてきました。教養は、一般的な事柄について広く浅く学び、常識を身につけること、あるいは、専門に行くための基礎的な知識を身につけること、そのように考えられてきました。

しかし現代では教養の役割は大きく異なっています。教養をつけるとは、単に広い分野の物知りになることではありません。教養とは、現代の狭く細分化されすぎている専門性を、より広い視野に立って鳥瞰的・俯瞰的に捉えるための知的態度のことなのです。

現代社会では、職業は専門化しています。私たちは、自分の仕事には専門性があっても、他の分野ではまったくの素人です。そのために、自分が知っている範囲以外では何が行われているかがまるでわからなくなっていますし、視野が狭くなり、どうしても自分の分野や組織のことばかりを意識的・無意識的に優先してしまいがちです。ここから問題が生じてきます。

たとえば、遺伝子組み換え食品の例を考えてみましょう。現在では、植物の遺伝子を組み換えて、害虫に強いジャガイモや病気に強いイネ、腐敗しにくいトマトなどが作られています。遺伝子操作で新しい品種の農産物を作るという場合、それを開発導入しようとする技術者や農業者の利益を推進するだけでは一方的すぎます。多くの人の不満や不安を無視しています。

健康が心配な消費者、新種が受け入れられるかを危惧する農業者、生態系への悪影響を心配する地元の人々、地域産業の発展を期待している人々など、食品をめぐる利害関係者にはさまざまな人がいます。それらの人たちの関心にも十分に配慮して、その食品の開発と導入を行わなければなりません。そのためには、遺伝子工学だけではなく、農業の仕組み、環境問題、健康や子育てなどさまざまな分野について、まずは思いが及ばなければなりません。さまざまな方面に意識が向けられなければなりません。多様な分野と地域の人々を結び合わせるつなぎ役が必要なのです。

現代社会では、専門性が進んでいるからこそ、ひとつの事柄をさまざまな視点から検討し、他の分野や一般社会と関係づけて考える力が必要とされます。それが教養と呼ばれるものです。したがって、教養とは、専門教育への単なる準備ではなく、また、ただ広い範囲の物事に浅い知識をもっていることでもありません。教養とは、専門教育を他の分野や一般社会と結びつけるためのもの、専門家を他の分野や一般社会の人々に結びつけるためのものです。

別の言い方をすれば、人々と結びつけ、互いの知識を結びつけていく人間交流の知が教養と呼ばれるようになったのです。したがって現代の教養は、さまざまな分野の人を話し合わせる対話の術すべを必要とします。

（河野哲也「問う方法・考える方法」より）

【設問】 右の文章を読み、現代社会の変化の中で、学びはどのように変化しているのかについて、筆者の主張を要約するとともに、

それに対するあなたの考えを述べなさい（800字以上1000字以内）。

二〇二三年度 推薦入学者選抜
人間科学部 臨床心理学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

【設問】 次の二つの出題の中から一つを選んで七〇〇字から一〇〇〇字以内で論述しなさい。

論述にあたっては、自分の考えや主張を明確にすること。

選んだ出題の番号を解答用紙の出題欄に必ず記入すること。

〔出題一〕

争いによって生命が失われている情勢が、連日、止むことなく報道されている。報道を見た者は事実を認識するよりも、まず強く恐怖を感じるのではないだろうか。恐怖はときに、人間から考えることを奪う。

現代人は、情報を手に入れると安心する。分かったと思い込む。だが、情報に心を領^{りよう}された者は考えることを止めてしまう。考えるとは、情報の奥にあることを見極めようとする営みでもあるからだ。

このことがいかに重要かは、自分が知られる対象になったことを想像すればすぐに分かる。言葉を発することも赦^{ゆる}されず、噂や履歴書だけで人格まで判断されるのを、誰も好ましいとは思わないだろう。

考えるとは、安易な答えに甘んじることなく、揺れ動く心で、問いを生きてみることだ。真に考えるために人は、勇気を必要とする。考えることを奪われた人間はしばしば、内なる勇気を見失う。私たちは今、武力を誇示するような勇ましさととはまったく異なる、内に秘めた叡知の働きを呼び覚まさなくてはならない。

勇気を出す、勇気を振り絞るという。こうした表現は、勇気とは誰かに与えられるものではなく、すでに万人の心中に宿っている事実を暗示している。

右の文章は批評家で東京工業大学教授である若松英輔氏による著書『悲しみの秘義』からの一節である。著者は情報に心を領りようされることがなく自ら考えることの大切さを説き、そのためには「勇気」が必要であると述べている。考えるためになぜ「勇気」が必要となるのか、その際に必要とされる「勇気」とはどのようなものか、あなたの考えを示しなさい。

〔出題二〕

夫婦同氏強制による「不便や困難」「アイデンティティの喪失」「カップル間の不平等」「婚姻の自由の侵害」などについては、国会や法廷で立法事実や違憲議論として現実に起きている困窮状況を論理的に説明し尽くしている。一方、岩盤反対派の理由はいつも、「家族の絆」「社会秩序」「子どもが不幸」など、仮定に基づく感情論ばかりだ。現実社会を見渡せば、世界でも、日本でも別姓家族だらけになっているのだから、世界中で社会秩序が乱れ、子どもが不幸なのだろうか。こうした事実を目の当たりにして、日本の国民、特に明日を担う世代の意識は加速度的に変化し、法律や制度が適応せざるをえなくなる日は近いうちに必ず来ることになるのだろうか。（出典…栗田路子・富久岡ナラ・プラド夏樹・田口理穂・片瀬ケイ・斎藤淳子・伊東順子著（二〇二二）『夫婦別姓―家族と多様性の各国事情』筑摩書房）

日本では結婚時に夫婦のいずれかの姓に統一する夫婦同氏（以下、夫婦同姓）制度が採られている。しかし、この数十年間、夫婦が希望する場合、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の姓を名乗ることができる選択的夫婦別氏（以下、夫婦別姓）制度の導入について議論が重ねられている。著者は選択的夫婦別姓制度に賛成の立場にあり、右記の引用部分以外の文中で、夫婦同姓を法律で強制しているのは日本だけであるという現状、日本人と外国人が国際結婚をする場合はその届け出が国内外のどちらで行われても夫婦別姓になるという実情を紹介している。一方、著者は反対派が掲げている理由のひとつに「子どもへの悪影響」を挙げている。

夫婦別姓を希望して別々の姓を名乗っている両親をもつ子どもの立場に立った場合、その長所と短所についてあなたの考えを述べなさい。

二〇二三年度 推薦入学者選抜

文学部 日本語日本文学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読み、まず論旨をまとめなさい。次に、この文章が著されたのが二十年程前であることを踏まえ、文中に例示されている「紙」「万年筆」「ワープロ」といった各時代における新しい文房具の登場を今日の社会・生活環境に照らして捉え直した上で、現代における知的生産環境の変化の具体例を挙げ、その変化による日本語文化への影響についてのあなた自身の考えを述べなさい。

小論文の冒頭にあなたの考えがわかるように適切な題をつけ、四五〇字以上六〇〇字以内（句読点や記号および段落のために生じる余白も字数に含む）で書きなさい。

日本人が文章を書く時に使っていた筆記用具が毛筆から万年筆に変わりだしたころのありさまを調べようとして、あれこれ文献を探している時に、夏目漱石の「余と万年筆」という文章を見つけた（岩波書店『漱石全集』第十一巻所収）。この文章が書かれたのは大正元（一九二一）年のことであるが、文章の冒頭に漱石は友人から聞いた話として、「丸善の店では多い時に一日に万年筆が百本売れることもある」と記している。ちなみに「万年筆」という呼称を創ったのはほかでもなくこの丸善なのであるが、当時の万年筆はすべて輸入品であつたから価格も相当高かつたはずである。しかしそれでもそれが一店舗だけで一日に百本も売れることがあつたというのは、新しい便利な筆記道具を使うとする人々の熱意が十分に感じられる事実である。

漱石自身も小説を書きだしてからしばらくの間はペン先を「印気」^{インキ}に浸して書く方式のペンを使っていたが、ある時からペリカイン社製の万年筆を使いだしたらしい。しかし彼の扱い方は相当に乱暴だつたようで、そのためもあつてか、漱石には万年筆がそれほど使い心地のいいものとは思えなかった。やがて新聞に『彼岸過迄』を連載した時に、彼は「一と時代退歩して」またペンにインクをつけて書く方式に戻つた。だがその漱石ですら、やはりひとたび覚えた万年筆の便利さは忘れがたく、「離別した妻君を後から懐かしく思ふ」ように、万年筆に対する未練をもち続けたという。

その辺の事情を漱石は次のように書いている。

余の如く機械的の便利には夫程重き^{それほど}を置く必要のない原稿を書いてゐるものですら、又買ひ損なつたか、使ひ損なつたため、

万年筆には多少手古擦つてゐるものですら、愈万年筆を全廃するとなると此位の不便を感じる所をもつて見ると、其他の人が如何に拘はらず、毛筆を棄てペンを棄て、此方に向ふのは向ふ必要があるからで、財力ある貴公子や道楽息子の玩具に都合のいい、贅沢品だから売れるのではあるまい。

そして漱石は、このように便利な万年筆がこれからますます社会に普及しだすにつれて、「筆を執る人が万年筆を解しなければ済まない時代が来るのはもう遠い事ではなからふ」とも記している。

右の漱石の文章における「万年筆」を「ワープロ」に置き換えるならば、それはまさに現代の状況をそのまま表現したものとなるだろう。

ワープロが社会に登場してもはや十年以上になる。この間のワープロの普及にはまことに目覚ましいものがあつて、当初はいろいろと物議をかもしたワープロ書きの文書や年賀状も、最近ではそれほど話題にはならなくなったようだ。

ワープロの出現は単に文房具の改良という次元でとらえられるものではなく、それは日本語による文章表記の環境を根底から変革するものであつた。新しい文房具の登場によつて、それまでの文化が大きく変化したことを人類はこれまでにしばしば経験してきた。紙の出現と普及がそのもっともわかりやすい例であり、また人々がどこでも長い文章を書けるようになったのは、万年筆を使得だしてからのことである。

ワープロは、現代の日本人が初めて経験する、知的生産環境の大変革をもたらす機械である。この機械がこれからますます普及するにつれて、今後の日本語文化がどのように展開していくか、問題はまだまだ複雑な様相を帯びている。

阿辻哲次『知的生産の文化史 ワープロがもたらす世界』丸善ライブラリー

2023 年度 推薦入学者選抜
文学部 英米語英米文学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

以下の文章を読んで、後の二つの設問に答えなさい。

世界初の鉄道の開通当日に死傷事故が起きていることからしても、鉄道には事故がつきものと運命づけられていたのかもしれない。一八三〇年九月一五日、開通を祝う処女列車は多くの招待客を乗せてリヴァプール駅を発車してマンチェスターに向かった。列車が水を補給する目的もあって途中のパークサイド駅で停車すると、乗客たちは誰にいわれるまでもなく列車の外に降りてしまった。無理はない。駅馬車の場合、宿駅や途中の休憩の際に乗客は窮屈だった体を伸ばすために馬車から降りていたので、これは当たりまえの習慣になっていたからである。招待客だったハスキッソン国会議員は、やはり招待客だったウェリントン侯爵に挨拶しようとして隣の線路を横断しようとした。そこへ運悪く、処女列車とは反対方向から走ってきた機関車に轢かれてしまったのである。これは不注意によるものであったが、マンチェスター・アンド・リヴァプール鉄道はその後年にも一回は事故を起こしていた。

アメリカでも一八三三年ニュージャージーで機関車の車軸が折れて脱線転覆し、乗り合わせていた元大統領のアダムスと後の鉄道王ヴァンダービルトは車外に投げ出されて大怪我を負った。フランスでも一八四二年の五月の日曜日に、ヴェルサイユから行楽客を満載してパリに戻る列車が車軸の破損で脱線転覆し、後続の客車はその上に乗り上げて火炎に包まれた。死傷者一六〇名を出す、当時鉄道史上最悪の事故となった。

このような鉄道事故は安全システムが輸送能力の進歩に追いつけなかったから起こったのである。一八六五年、アメリカの週刊誌「ハーパーズ・ウィークリー」には次のような記事が載っていた。

現在死神はその標的を旅行者に置いている。毎日死亡事故の報道が続いている。昨日は衝突、翌日は機関車の爆発、そして列車全体の堤防からの転落事故、河への墜落事故が続く。安全への不信の念は高まっていて、無事に目的地に到着した乗客はほっとした解放感に包まれる。今年鉄道事故で失われた生命はいかなる激しい戦場での死者よりも多いのである。

この記事はどこまできちんと統計資料（たとえば南北戦争の戦死者数など）にあたったか疑問であるし、アジテーション^{注1}の感じもしないではないが、当時の鉄道に対する不安を

象徴しているといえよう。

次は統計資料を見てみよう。イギリスでは一八三〇年から一九世紀中の七〇年間で報告された大きな事故は三三件、その内過半の一八件が衝突事故であった。衝突事故の原因は結局ブレーキと信号システムの不完全さに起因していた。まだスピードは遅かったし、列車の運転間隔もあいていたので停止することの重要性にはあまりぴんとこなかったのである。それに機関車の機械的摩擦抵抗（工作精度も低く、ベアリングもなく、潤滑装置も貧弱だったため）が大きかったので、蒸気エンジンを止めれば機関車はほどなく自然に止まったのである。ブレーキ装置は手動の木製シュー^{注2}で車輪踏面^{とうめん}^{注3}を挟み込む仕組みで、それも機関車と一部の客車についているだけだった。

しかし、だんだんスピードが上がり、列車は重たくなり、運転本数も増えて運転間隔は短くなっていった。この結果一九世紀後半に入ると、衝突事故が深刻化してきたのである。対策としてまず真空ブレーキが出てきた。ブレーキ・シリンダーのなかを真空にして外気圧との気圧差を動力にシューで車輪を締めつけるメカニズムである。同時に空気を列車全体につなげたので、機関車で操作すると全車両一斉にブレーキがかかるようになった。ブレーキ性能はぐんとよくなったがまだ改良の余地があった。

一八六六年、アメリカ人のジョージ・ウェスティングハウスが「直通空気ブレーキ」という画期的な装置を開発した。これは蒸気機関車に空気圧縮機を備えて、止めるときは空気を通して空気を各車両に送り、この力でブレーキ・シューを車輪踏面に押しつける仕組みであった。このブレーキの優秀性はどの国でも認められて、アメリカを皮切りにだんだんとこれに切り替えられていったが、一朝一夕にはいかず、イギリスや日本で完全に直通空気ブレーキが浸透するには一九三〇年代まで待たなければならなかった。

さて、ブレーキが改良されてちゃんと列車が止まれるようになって、カーブの陰に隠れて前の列車が止まっていたり、単線区間で予期もせず反対方向から列車が突っ込んできたりしたらお手上げである。こうした事態に備えるのが信号装置である。そして最初の信号装置は機械でなくなんと人間だったのである。鉄道の沿線に一定間隔で警察官が立ち、列車に対して「停止」「注意」「進行」の合図を送っていたのである。グレート・ウェスタン鉄道の例を取ると、警察官は前の列車が通過した後、次にくる列車に対して一〇分間は「停止」信号、次の七分間は「注意」信号、一七分経つと「進行」信号を出していた。しかし豪雨や厳寒のなかで立ち続けることは大変である。警察官はやがて信号機に替わった。最初は信号機も球

形のボールや円盤などを使っていたが、やがて腕木式になる。しかし、その信号を出すおおもとの仕組みは警察官時代と同じく時間間隔方式であった。

時間だけ管理しても、なんらかの原因で前の列車が立ち往生することもある。濃霧であったり、故障であったり——。時間管理の不完全さを払拭するには空間管理しかなかった。これが現在でも採用されている「閉塞システム」である。路線を特定の何キロかに区切りその区間に一本の列車が入っていると、たとえ一時間経とうが二時間経とうがほかの列車はいっさい入れないという考え方を装置化したものである。最初は電信機を使って人間が確認し、次はレールに電流を流して列車が進入すると自動的に停止信号を出す仕組みとなり、そしてこれをさらに進化させたのが最近の ATC^{注4}であるが基本原理は同じである。

(小島英俊『鉄道という文化』角川選書、p.150-p.154、一部改変)

注1 アジテーション…激しい調子の演説や文章などによって、多くの人の感情に訴え、人びとを自分の意図する行動にかりたてようとする事。

注2 シュー…靴形の器具や部品。

注3 車輪踏面…車輪のレールと接する面。

注4 ATC…自動列車制御装置 (Automatic Train Control)。

【設問Ⅰ】

以上の文章には、鉄道事故が起きないようにするためにされてきた工夫と努力が大きく分けると2つ紹介されています。それぞれの内容をまとめ、合計300字程度で書きなさい。

【設問Ⅱ】

今後、鉄道には安全性に加えて、利便性（多様な利用者に便利な存在であること）、環境性（環境に配慮して鉄道の敷設、車両の開発をすること）、持続性（利用者は少なくとも地方の足となる鉄道を持続すること）も求められるでしょう。この3つの中から、将来あなたにとって最も重要となるものは何ですか。以上の文章の安全性の例を参考に、具体例を挙げてどのような理由で重要となるかを500字程度で書きなさい。

二〇二三年度 推薦入学者選抜

文学部 中国語中国文学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

注意…文章については、著作権の都合上、省略

【設問】

〔一〕 本文で述べられている「文化」の定義の第二次世界大戦の前と後の違いは何か。文中のことばを用いて八十字程度にまとめなさい。

〔二〕 文化交流とは、国と国、あるいは民族と民族の間の文化のやりとりとされている。本文での著者の「文化」に対する捉え方を踏まえ、文化交流の重要性についてあなた自身の体験など実際の例を挙げながら六百字以内であなたの考えを述べなさい。

2023 年度 推薦入学者選抜

文学部 外国語学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

以下の文章を読んで、後の二つの設問に答えなさい。答えは全て解答用紙に記入しなさい。

仕事柄、現代の若者たちのコミュニケーション問題について、たくさんのインタビューを受ける。マスコミは当然、「いまどきの若者のコミュニケーション能力は危機に瀕している」とか、「子どもたちのコミュニケーション能力が急速に低下している」といったセンセーショナルな文言を並べたがる。

しかし、実際には、多くの言語学者、社会学者に聞いても、彼らが良心的な研究者であればあるほど、そういった学問的な統計は出してくれない。

もちろん「近頃の若者は、コミュニケーション能力が低下していると思いますか？」といった類の、印象だけを聞くアンケート調査なら、「低下」「著しく低下」といった回答が多く出てくるだろうが、しかしそれを根拠づける学問的な統計は、寡聞にして聞いたことがない。

では、いったい、何が問題になっているのだろうか。

私は、現今の「コミュニケーション問題」は、先に掲げた「意欲の低下」という問題以外に、大きく二つのポイントから見ていくべきだと考えている。

一つは「コミュニケーション問題の顕在化」という視点。

もう一つは、「コミュニケーション能力の多様化」という視点。

若者全体のコミュニケーション能力は、どちらかと言えば向上している。「近頃の若者は……」としたり顔で言うオヤジ評論家たちには、「でも、あなたたちより、いまの子たちの方がダンスはうまいですよ」と言ってあげたいといつも私は思う。人間の気持ちを表現するのに、言葉ではなく、たとえばダンスをもって最高の表現とする文化体系であれば（いや、実際に、そういう国はいくらでもあるだろう）、日本の中高年の男性は、もっともコミュニケーション能力の低い劣った部族ということになるだろう。

リズム感や音感、いまの子どもたちの方が明らかに発達しているし、ファッションのセンスもいい。異文化コミュニケーションの経験値も高い。けっしていまの若者たちは、表現力もコミュニケーション能力も低下していない。

事態は、実は、逆なのではないか。

全体のコミュニケーション能力が上がっているからこそ、見えてくる問題があるのだと私は考えている。それを私は、「コミュニケーション問題の顕在化」と呼んできた。

さほど難しい話ではない。

どんなに若者のコミュニケーション能力が向上したとしても、やはり一定数、口べたな人はいるということだ。

これらの人びとは、かつては、旋盤工やオフセット印刷といった高度な技術を身につけ、文字通り「手に職をつける」ことによって生涯を保証されていた。しかし、いまや日本の製造業はじり貧の状態で、こういった職人の卵たちの就職が極めて厳しい状態になってきている。現在は、多くの工業高校で（工業高校だからこそ）、就職の事前指導に力を入れ面接の練習などを入念に行っている。

しかし、つい十数年前までは、「無口な職人」とは、プラスのイメージではなかったか。それがいつの間にか、無口では就職できない世知辛い世の中になってしまった。

いままでは問題にならなかったレベルの生徒が問題になる。これが「コミュニケーション問題の顕在化」だ。

あるいは、コミュニケーション教育に関する私の講習会に来ていた現役の先生からは、こんな質問を受けたこともある。

「少し誤解を受けやすい表現になってしまいますが、たとえば自閉症の子どもなら、周囲もそのように接しますし、教員も、できる限りのコミュニケーション能力をつけてあげたいと努力します。でも一方で、必ず、クラスに一人か二人、無口な子、おとなしい子がいます。こういった子は、学力が極端に劣るわけでもないし、問題行動があるわけでもない。いままでは、いわば見過ごされてきた層です。そんな子どもたちにも、小学校からコミュニケーション教育を行った方がいいのでしょうか？ たしかに、将来、就職とかは、不利になりそうだと思いますが……」

これは悩ましい問題だ。

ただ、たとえばこう考えてはどうだろう。

世間でコミュニケーション能力と呼ばれるものの大半は、スキルやマナーの問題と捉えて解決できる。だとすればそれは、教育可能な事柄となる。

そう考えていけば、「理科の苦手な子」「音楽の苦手な子」と同じレベルで、「コミュニケーションの苦手な子」という捉え方もできるはずだ。そして「苦手科目の克服」ということなら、どんな子どもでも、あるいはどんな教師でも、普通に取り組んでいる課題であって、それほど深刻に考える必要はない。これはのちのち詳しく触れるが、日本では、コミュニケーション能力を先天的で決定的な個人の資質、あるいは本人の努力など人格に関わる深刻なものと捉える傾向があり、それが問題を無用に複雑化していると私は感じている。

理科の授業が多少苦手だからといって、その子の人格に問題があるとは誰も思わない。音楽が多少

苦手な子でも、きちんとした指導を受ければカスタネットは叩けるようになるし、縦笛も吹けるようになるだろう。誰もがモーツァルトのピアノソナタを弾ける必要はなく、できれば中学卒業までに縦笛くらいは吹けるようになっておこうよ、現代社会では、それくらいの音感やリズム感が必要だからというのが、社会的なコンセンサスであり、義務教育の役割だ。

だとすれば、コミュニケーション教育もまた、その程度のものだと考えられないか。コミュニケーション教育は、ペラペラと口のうまい子どもを作る教育ではない。口べたな子でも、現代社会で生きていくための最低限の能力を身につけさせるための教育だ。

口べたな子どもが、人格に問題があるわけでもない。だから、そういう子どもは、あと少しだけ、はっきりともものが言えるようにしてあげればいい。

コミュニケーション教育に、過度な期待をしてはならない。その程度のものだ。その程度のものがあることが重要だ。

(平田オリザ『わかりあえないことから』講談社現代新書より、下線は出題者)

【設問 1】

筆者はどのような現象を指して「コミュニケーション問題の顕在化」と呼んでいるのか。本文の言葉を用いて、150字以上200字以内で説明しなさい（句読点を含む）。

【設問 2】

「コミュニケーション教育に、過度な期待をしてはならない。その程度のものだ。その程度のものであることが重要だ。」と筆者が考える理由を説明し、それについてあなたはどうか、300字以上400字以内で述べなさい（句読点を含む）。

2023 年度 入学者選抜試験問題

情報学部

小 論 文

注意

1. 監督者の指示があるまで、問題用紙を開かないこと
2. 解答はすべて解答用紙に記入すること
3. 監督者の指示に従い、所定欄に、受験番号・氏名を記入すること
4. 机上には筆記用具・消しゴム・鉛筆削り・時計および受験票以外のものを置かないこと

受 験 番 号	氏 名

以下の文章は、2019 年 5 月 25 日に読売新聞の夕刊に掲載されていた「高校部活に e スポーツ 『協調性養う』『勉学の妨げ』賛否」という記事です。この文章を読んで、後の問に答えください。

注意:文章については、著作権の都合上、省略

問 あなたは「e スポーツ」を部活動として行うことに賛成ですか。それとも反対ですか。最初に自分の賛否の立場を明確にした上で、その理由を説明しなさい。
(800 字以内)

以上

2023 年度 入学者選抜試験問題

国際学部

小 論 文

注意

1. 監督者の指示があるまで、問題用紙を開かないこと
2. 解答はすべて解答用紙に記入すること
3. 監督者の指示に従い、所定欄に、受験番号・氏名を記入すること
4. 机上には筆記用具・消しゴム・鉛筆削り・時計および受験票以外のものを置かないこと

受 験 番 号	氏 名

次の課題文を読み、つづく2つの設問に解答して下さい。

<課題文>

西条市は、愛媛県東部の道前平野に位置する人口約11万人の地方都市である。

本市の人口は、1985（昭和60）年をピークに減少の一途をたどっており、特に、市内に高等教育機関が立地していないことから、高等学校を卒業した進学者のほぼ全てが市外に居を移すという特徴があり、極端な若年層の人材不足による人口分布のアンバランス状態が、本市を継続的に発展させていくためのボトルネックとなっている。

また、産業バランスや自然環境、豊かな地域資源に恵まれている地域ではあるものの、それらの居住地としての優位性が十分に活かしきれていないこと、また市民にも魅力が伝えきれておらず、また、伝わっていても発信力が弱く、市外居住者に対し、本市の魅力が十分に訴求できていないことから、認知度、イメージなどの向上が図られていないという課題もあった。

こうした状況に対し、地域の活力を維持・増進し持続的な発展を可能とするためには、地方創生の取組が全国で展開され、地域間競争が激化する中、市民や企業、各種団体に「西条という選択」をしていただく必要がある。

そのために、産業振興や生活環境の充実といった取組により、地域の魅力を高めるだけでなく、^(a) 地域の魅力を「選ぶ」主体に適切に伝える「シティプロモーション」を地域創生の1つの柱として位置付け、全市を挙げて推進することにより、地域間競争での「生き残り」ではなく「勝ち残り」の実現を目指すこととした。

シティプロモーション戦略の策定

2017（平成29）年度に策定した^(b) シティプロモーション戦略（以下、「戦略」という）では、「市外からみた知名度とイメージの向上」と「市民の愛着と誇りの醸成」を基本目標として掲げ、これらの市外向けと市内向けの2つの方向性を両軸として各種施策を推進し、それらを循環させながら、まずは、効果的な情報発信を行うことで、将来的な「UI」ターン者の獲得や「市民の定住促進」などを目指すこととした。

その中でも、特に若い世代に対して、本市の強みである「多様な働き方にチャレンジできる環境」に加え、地域コミュニティや穏やかな人とのつながり、子育て環境の充実や良好な自然といった「暮らしの豊かさ」を重点的にPRしていくこととしている。

戦略の基本方針

I 「魅力のストーリー化・パッケージ化」

本市の戦略では、効果的にプロモーションを進めるための基本方針を設定し、これらの方針を踏まえた積極的なパブリシティとメディアの活用により、情報発信力の強化を図ることとしている。

「魅力のストーリー化・パッケージ化」では、従来の地域資源や施策など、魅力のありのままの姿を概要として情報発信するのではなく、その魅力の特性・特長から魅力の“コンセプト”を定め、テーマを掲げたり、魅力を組み合わせたりすることで、魅力の付加価値や訴求力を高めることを目的としたものである。

具体的な取組としては、西条市特有の地域資源である「もの」「こと」「場」の魅力を、それに携わる「ひと」の仕事を通して、稼ぐチカラに満ちた西条市というコンセプトを打ち出し、ストーリー化したコンテンツを作成し、各種メディアに発信することで、新たなターゲット層の取り込みや魅力の付加価値を高めることを目指している。

II 体験価値の向上

また、「体験価値の向上」は、本市を実際に訪れ、体感してもらえる仕組みの構築などにより、価値を実感し、納得し、その口コミや SNS などによる共感の拡散につなげていくことを目的としたものである。

一例としては、本市を訪れる移住関連番組を制作するほか、希望者の個別の要望に合わせた現地のツアーを企画開催している。

また、職員がコンシェルジュとなり、土、日、祝日も対応可能な西条市内の無料アテンドサービスも実施しており、このサービスでは、移住検討者の希望に合わせて市内各所を案内するほか、地域の「ひと」との交流をも積極的に取り入れた結果、2018（平成 30）年度の実績としては、8 月末現在、19 件のサービス利用者があり、そのうち 11 件が移住に結びついている。

III 「「to」から「with」へと行動変容」

「「to」から「with」へと行動変容」は、従来の行政主体の「To 人々」型から、市民がと

もに魅力を創出し、発信していく「With 人々」型の発想へと転換を促す施策・事業を展開しようとするものである。

これまでは新聞やテレビ、広報紙といった情報媒体から情報を発信し、それを受け手が受け取るという一方通行（1Way）の流れであったが、現在ではメールや Facebook、Twitter などを通じて、即座に互いに感想や意見をやりとりする双方向性（2Way）コミュニケーションが容易となっている。

このような背景のもと、市民が共に情報を構築し、発信していく「With 人々」型の発想への転換を図ることにより、SNS を活用し、情報の受け手がその情報を更により多くの人に発信すること、いわゆる情報の共有・拡散につなげることを目的とするものである。

IV 「インナープロモーションの展開」

また、「インナープロモーションの展開」では、市民にもブランドコンセプトなどの浸透に向けた担い手として参画していただくことで、市外への情報発信力の拡大を図ろうとするものである。

市民と共に情報を構築し、発信していく「With 人々」型への転換を図るためには、まちが持つ魅力を従来の視点ではない考え方で発掘・創出し、まちの魅力そのものを高めていくとともに、市民の「自分の住むまちを勧めたい」という意欲や「自分の住むまちをよりよくするために働きたい」という意欲等を高める必要がある。

そのために、市の取組などに興味を持った市民が情報発信などに参画できるような仕組みづくりや、市民がまちの魅力に触れ、その価値を理解し、それを発信してもらえるような参加型の取組を進めることとしている。

これらの基本方針のうち、I、II については、主に市外向けのプロモーションであり認知度や都市イメージの向上につなげようとするもので、III、IV は、主に市内向けに、市民の愛着と誇り＝シビックプライドの醸成を目指すものである。

（出典：玉井敏久（2019）「シビックプライドと関係人口を連携させた西条市の取組」、牧瀬他編著『シティプロモーションとシビックプライド事業の実践』東京法令出版 所収）

設問 1

下線 (a) 地域の魅力を「選ぶ」主体に適切に伝える「シティプロモーション」 という意味
がいつそう明確になるように、課題文を 350～400 文字で要約して下さい。

設問 2

下線 (b) シティプロモーション戦略を検討し、それを実施している愛媛県西条市のよう
に、あなたも自分の地元のプロモーション戦略づくりに挑戦してみましょう。課題文に示され
る基本方針Ⅰ～Ⅳの考え方をヒントに、誰に、何を、どのように伝えたらよいか、あなたの地
元を好きになってもらう作戦を考え、350～400 文字で紹介して下さい。

注 1：地域（地元）名は必ず記載して下さい。

注 2：紹介に用いる基本方針はいくつでもかまいませんが、必ず 1 つ以上使って下さい。

2023 年度 文教大学 経営学部 学校推薦型選抜 公募制推薦 小論文問題

- ・ 解答はすべて答案用紙に記述してください。
- ・ 答案用紙および問題冊子について、受験番号および氏名は所定の欄に記入してください。
- ・ 試験時間は 60 分です。
- ・ 基本的に質問には応じませんが、印刷の誤り、落丁、乱丁の場合は、問題、答案用紙を取り替えますので、監督者に申し出てください。
- ・ この問題冊子は、試験終了後に回収します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(令和 4 年 11 月 20 日実施)

以下の課題文を読み、つづく設問に答えなさい。

〈課題文〉

注意：文章については、著作権の都合上、省略

【設問】

課題文のエゴ・レジリエンスの概念を参考に、あなた自身が描いているレジリエンス（自発的治癒力）への価値観や課題文との違いを踏まえ、経営学部のアドミッション・ポリシーをすり合わせ、経営学部入学後にあなた自身が、身につけるべきエゴ・レジリエンスのイメージを800字以内で述べなさい。

※ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

経営学部では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 文教大学の「人間愛」の理念のもとで、社会のより良き一員として生きていくための基盤的な能力や人格を着実に修養し、そのうえで経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を多面的に効果的に活用できる人
2. 経営活動において人を核心とする思想と手法を統合し、「人間尊重の経営」を具現化できる人
3. 基礎学力と学修意欲を有していることはもとより、大学の理念や学部の目標について理解し共鳴できる人

学んできてほしい内容

1. 基礎学力と学びへの姿勢
高等学校における教科を着実に学び、基礎学力を修得しており、学ぶことの面白さや学ぶ習慣を身につけている。
2. 求められる能力にかかる基礎の修得
コミュニケーション能力、論理的思考力、総合的判断力、そして的確な表現力は、経営学部での専門的な学修を深めるために不可欠となる。高等学校での各教科の学習を通じて、こうした能力の基礎が修得できている。
3. 主体的な思考と他者との協働
経営学部の教育では、学生と教員、あるいは学生同士の対話と協働によって、高度な思考力や卓越した創造性を錬磨させていく。主体的に思考し行動しながらも、他者を尊重し多様な人々と協力していこうとする態度が身についている。
4. 社会の一員としての意識
自分の人生や進路について真剣に考えるとともに、社会のさまざまな出来事に対して問題意識を有している。